

腹腔鏡内視鏡
合同手術研究会
Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery
第18回 2018年10月31日

■ 2-JP 大腸腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術 (Laparoscopy Endoscopy Cooperative surgery-colorectal ; LECS-CR) の可能性
Possibility of laparoscopy endoscopy cooperative surgery-colorectal (LECS-CR) for colorectal tumor

代表演者：鈴木紳祐 (がん研有明病院消化器センター消化器外科／横浜市立大学消化器・腫瘍外科学)

Speaker: Shinsuke Suzuki, M.D., Gastroenterological surgery, Cancer Institute Hospital

共同演者：福長洋介 1, 為我井芳郎 2, 齋藤彰一 2, 長崎寿矢 1, 秋吉高志 1, 小西毅 1, 藤本佳也 1,
長山聡 1, 上野雅資 1

所属施設：がん研有明病院消化器センター消化器外科 1, 消化器内科 2
横浜市立大学消化器・腫瘍外科学 3

【目的】これまで、ESD 困難症例には低侵襲手技である腹腔鏡下大腸手術が行われてきた。当院ではさらなる低侵襲化を目指し、腹腔鏡内視鏡合同手術 (Laparoscopy Endoscopy Cooperative Surgery - Colorectal:以下 LECS-CR) を試みている。今回、LECS-CR の安全性について検討した。

【方法】2004 年から 2017 年に当院で術前診断が腺腫もしくは粘膜内癌と診断され、手術を施行した症例は 100 例あった。そのうち、LECS-CR を施行した 15 例 (LECS 群) と LAP-C を施行した 85 例 (Lap 群) の治療成績を後ろ向きに比較した。

【成績】腫瘍の局在は LECS 群で C:A:T:D:S:R=5 例:4 例:4 例:1 例:0 例:1 例, Lap 群で 30 例:21 例:15 例:2 例:9 例:8 例。LECS を施行した理由は虫垂開口部 5 例, 憩室 3 例, 繊維化 4 例, 粘膜下腫瘍 2 例, 局在 (肝彎曲部) 1 例だった。手術時間は 183 分:187 分 ($p=0.73$), 出血量は 10ml:42ml ($p=0.002$) と LECS 群で有意に出血量が少なかった。術後 3 日目の CRP 値は 4.1mg/dl:6.5mg/dl ($p=0.07$) と LECS 群で炎症反応が低い傾向を認めた。開腹移行は Lap 群に 1 例認めるのみだった ($p=0.67$)。CD Gr III 以上の合併症も Lap 群に 2 例認めるのみだった ($p=0.55$)。術後在院日数は 6 日:12 日と LECS 群で有意に短かった ($p=0.009$)。

【結論】ESD 困難症例に対する LECS-CR は患者への侵襲が少なく、安全性も高いことが示唆された。